

樹医からのアドバイス (Vol.02)

～松くい虫?…ひょっとしてハダニかも!～

出雲市樹医センター

樹医 勝部 治良

夏に松の葉の色が変わったからといっても、松くい虫被害であるとは限りません。今回は、クロマツによく発生する『トドマツノハダニ』を紹介します。

トドマツノハダニとはどんな虫?

『トドマツノハダニ』は、体長 0.5 ミリメートルほどの縫い針の穴を通るくらいの小さな虫です。主としてクロマツに多発し、4月に第1回目の幼虫が発生して以降、10月下旬まで不規則に発生を繰り返します。

なお、クロマツの他に、アカマツ、トドマツ、ヒノキ、クリ、カシワにも発生します。

どうやって見分ける?

ハダニが葉を吸汁すると、吸われた跡は白っぽくかすり状の小はん点ができ、被害が多くなると葉はベージュ色に変化します。春から秋に発生しますが、特に5～6月の乾燥期に加害が激しく、夏期に急速に葉が退色します。

葉の上の虫を肉眼で見つけるのは難しいですが、白紙を使った簡単な確認方法があります。白紙の上で枝を叩くなどして震わせると、ハダニが紙に落ち、歩きまわるのを見ることができます。

防除方法は?

発生初期に「バロックフロアブル」(2000倍希釈)という薬剤の散布が有効です。なお、ハダニは水に弱いため、低木ならば、先に散水して虫体を落としてから、薬剤を散布すると効果が高まります。早期発見に心掛けましょう。



トドマツノハダニの成虫

(体長約 0.5mm)

【写真出典】

独立行政法人森林総合研究所

([http://www. ffpri. affrc. go. jp/](http://www.ffpri.affrc.go.jp/))